三角縁神獣鏡

柳本校区通信

7号

＜発　行＞
柳本小学校区区長会
＜事務所＞
柳 本 公 民 館
〒632-0052 天理市柳本町1127
☎ 0743-66-1004
＜発行人＞
森　田　　修

まちづくりに必要な視点

～地域の将来は自分たちで考える～

柳本校区 区長会
会 長　森　田　　修

平成26年に施行された「地方創生」は本年度にひとつの区切りを迎えるそうですが、柳本校区に於いては次の2事業が主な取り組みでした。

①トレイルセンターを改修、新機能が加わり、市運営から民間委託による運営に変わる。

②市はＪＲ西日本から柳本駅舎の譲渡を受け、観光・地域交流拠点として施設を整備、駅舎の管理運営は柳本駅舎管理運営協議会を指定管理者とした。

令和に入り奈良県は「山の辺の道　地域戦略会議」を設立、山の辺の周辺の農村地域等における賑わいの創出と地域活性化を目指すとしています。

それぞれの自治体で作成した「地域創生総合戦略」で街づくりは進んでいますが、先日気になる報道を目にしました。

町の地方創生推進交付金を活用した事業が赤字を出したため他の計画した事業を中止、住民の反発をうけていると報じていました、地方創生は表面的な取り組みでなく真に力強い自立につながる政策へと転換も必要ではないでしょうか。

急速な少子高齢化を迎える柳本校区は、人口減少は避けられませんが、柳本地域を訪れる人を増やせば過疎化は波止めがかかると思います。それは歴史資源を活かすことだと考えます。

本年、大阪府と堺市、羽曳野市・藤井寺市が推す、百舌鳥・古市古墳群が4度目の挑戦で世界文化遺産に登録されました。

私は正直「本当に世界遺産の価値があるの？」といぶかることもあります。私たちが住む地域と隣接する田原本町、桜井市は弥生時代から古墳時代前期の国のはじまりの地域で百舌鳥・古市古墳群に優るとも劣らない地域だからです。報道で知った登録に向けての取り組みの一部を紹介します。

古墳群は2010年に国内候補の暫定リスト入りしたが、13年、15年、16年の3度にわたり国内推薦が見送られました、15年に「世界文化遺産の登録を応援する市民の会」が発足、本年7月からは、東京ＪＲ山手線の車両に「古墳へＧＯ!!」と大きく書いた大胆な広告も展開、地元の熱意も高まりました。

近未来私たちの地域もそれぞれの地区の住民が連携してこの地域の歴史資源を活かす機運を醸し出して欲しいものです。先ずは、トレイルセンター、柳本駅の機能を活かし人々が集う場への展開に住民力に期待しています。

本校区通信第7号は「地域の将来は自分たちで考える」をテーマにしました。特別寄稿として、柳本駅舎竣工記念講演「耶馬台国と柳本黒塚古墳～歴史と共生するまち～」と題してご講演いただいた歴史地理学者　千田　稔　奈良図書情報館館長に玉稿を依頼、快く引き受けていただきましたこと感謝申し上げます。

その他トレイルセンター勝井景介氏に、トレイルセンター事業の検証と課題等を、柳本駅舎リニューアルオープンして半年経ちますが柳本駅舎管理運営協議会企画部の山本郁夫氏に現在と今後の展開について寄稿をお願いしました。

特別寄稿

磯城と柳本

奈良県立図書情報館
館長　千田　稔

今日の天理市柳本町が、かつては磯城郡に属していたことは、うかつにも、私は知らなかった。私は生まれてこの方、ほとんど磯城郡三宅町で過ごしてきたが、柳本とは疎遠であった。距離が離れていることと、最寄りの駅がJRと近鉄線との違いで、路線が交わることがなかったから、所用で出かけることはほとんどなかった。しかし、今回、寄稿する機会をいただき、おもしろい発見があった。

なぜ、柳本町が山辺郡でなく、磯城郡であるのか。そのような観点から柳本とその周辺をあらためて、みてみた。黒塚古墳をはじめとして、大和天神山古墳、崇神天皇陵古墳（行燈山古墳）、景行天皇陵古墳（渋谷向山古墳・渋谷は元は式上郡）、櫛山古墳など、古墳時代前期の重要な陵墓・墳丘墓群からなる柳本古墳群の存在は圧巻である。そして南には、「魏志倭人伝」にいう卑弥呼の宮があった可能性が高いといわれる桜井市の纒向遺跡がある。纒向遺跡には、墳丘墓群や箸墓古墳などの前期古墳があり、最近では整然と計画的に作られた建物跡など、邪馬台国ファンの注目をますます集めている。あるいは、磯城郡田原本町には、邪馬台国時代の先駆けとなった唐古・鍵遺跡という全国的に見ても規模の大きい弥生遺跡がある。

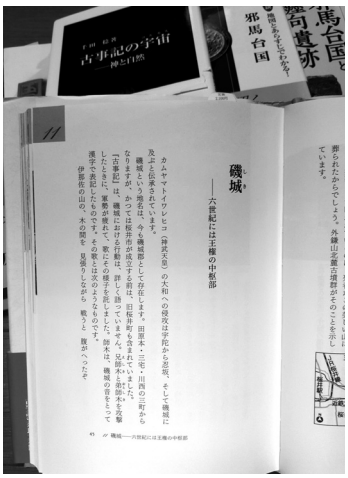
近年注目されてきたのは、磯城郡三宅町の伴堂東遺跡で、纒向遺跡と同時代ともみられる遺物が出土している。

磯城という地名の語源は何か。「磯」は音読みで「キ」あるいは「ケ(ゲ)」で、「シ」という音は辞典類にはない。ところが『日本書紀』の神武即位前紀に「磯、此をば、志と云ふ」とあるので、古くは「磯」を「シ」とも発音したようである。

「磯」の漢字の意味は『学研　漢和大辞典』に「水ぎわの石の多い所」と解説する。「城」は、文字通り「しろ(城郭)」と解すると、石が多く転ぶ川原からなる城郭的、あるいは中枢的土地ということになろうか。

時代は下がるが、八世紀頃からの律令制のもとで行政区域が国―郡―郷という形式が施行され、磯城の土地は、城上（しきのかみ）、城下（しきのした）と二分された。二文字で地名を表記するきまりがあるので、「城」一字で「しき」とよませ、上と下は一般的に河川の上流と下流に従ったもので、初瀬川の流れあるいはその支流にそったとみてよい。私の発見というのは、「城」を「しき」とよませたことである。つまり、磯城は、ヤマトの中に築かれた、城郭的あるいは中枢的空間であり、古代初期王権の中枢地区とみなされたのではないか。柳本が磯城の地に属したのは、大規模な古墳時代前期古墳が密集した、重きをなした地域であったことからと思われ。私は納得した。

山の辺の道「崇神天皇陵古墳」から
磯城の地域が一望できる



千田稔先生の関連図書の数々
「磯城　六世紀には王権の中枢部」として紹介

千田稔氏プロフィール

昭和17年　奈良県生まれ 歴史地理学者
京都大学文学部卒業　京都大学大学院博士課程中退
奈良県立図書情報館館長
国際日本文化研究センター名誉教授

【主な著書】
『古事記の奈良大和路』『古代の風景』
『奈良・大和を愛したあなたへ』など多数

皆が楽しみ交流できる街づくり

柳本駅舎管理運営協議会
企画部　山本郁夫

はじめに

柳本商工連盟会長の山本です。近年行ってきた町の活性化に対する試みとして所属する柳本商工連盟（天理市商工会柳本支部）で行ってきた活動を簡単に説明いたします。

○1998年、黒塚古墳対策委員会（柳本町自治連合会のちに柳本もてなしのまちづくり会）に参加、黒塚グッズや卑弥呼の里のぼり、看板作成、黒塚桜祭りの開催など

○2003～4年、山の辺の道クイズラリー（天理市、桜井市商工会青年部合同事業）の開催。

○2005～7年、山の辺の道チャレンジショップ開店、同時に長岳寺「千灯会」と「柳灯会」をつなぐ「山の辺のあかり」開催、同時期より柳本駅前イルミネーション設営など

○2009年～現在、天理じゃんじゃん市開催。

現在盛況になった天理じゃんじゃん市も南部地区事業として当初は柳本開催案があったのですが、場所が確保できないため長柄運動公園になりました。今年は11回目で、既に定例化し規模も大きくなっているため準備も大変ですが商工会みんなの努力で続いております。名前のじゃんじゃん市が龍王山の「じゃんじゃん火」から来ていることはその時の名残です。

朝市でにぎわう軽トラック販売
毎週 土・日 開催

「まちおこし」から「楽しい町づくり」へ

こうしてみると当時のいわゆる「まちおこし」事業は観光客を増やして町の活性化を図るというものでしたが、数年で終了するものや例年の「祭り」を行う過程で、私たちスタッフを含めた「地域全員が楽しめるもの」が継続する事業になっている結果などから、今は「まちおこし」から「まちづくり」へ、特に「楽しい町」づくりとして考えるに至りました。

現在、柳本校区及び柳本町の事業については、各種団体が主催団体に協力する形になっています。これは単独では人員確保が難しくなってきたことが原因でしたが、結果的に良かったこととして各種実行委員会や協議会で運営していくことによって協力、交流や理解を深めることができ、なにより自分たちも楽しめることでした。

柳本駅を守りまちづくりに活用できる場所を目指す

こうした中で昨年、天理市より柳本駅舎の活用の話があがり、6月説明会の中で、地元団体による協議会運営方式を提案し「柳本駅舎管理運営協議会」という「まちづくり」に関係する団体による「みんなの玄関口（柳本駅）を守り、これからのまちづくりに活用できる場所づくり」を目指した会が立上がり、この春からは駅舎交流施設「ピクトン」や「駅前朝市」開催などの運営が開始されています。

皆さんお気付きかもしれませんが電車に乗るだけの場所（駅）がそこに行けば誰かに会える場所に変わっただけで楽しめるものだなと思いませんか？

私たちが毎年祭りを続けているモチベーション（※動機づけ、目的などの意）も「観光客誘致」や「町の活性化」という難しいことではなく、ただみんなに会える、楽しめるという理由に他ならない思います。そして、祭りはたった年数回ですが、これからの柳本駅は何時でも楽しめる場所になる可能性があります。

駅前での「朝市」では、ご近所の皆様が散歩がてら買い物ができる場所を作ってみようと6月から毎週土日に開催（天候やイベントが重なって中止の場合も多々あります。）していますが、旬の野菜が安く購入できるとても喜ばれています。（中止のときは怒られるらしい）

ファミリーでにぎわう駅前ビアガーデン

さて、これから秋冬の作物がとれ、稲刈りの時期でもあります。今年は商工会とのコラボ企画として駅前イルミネーションにあわせて米祭りを提案してみようと思います。また、7、8月と駅前で「ビアガーデン」を開催いたしました。9月は台風で中止になり残念でしたが8月13日の開催ではお盆に帰省されたかたを含め多くのみなさまに楽しんで頂けたと思います。

ビアガーデンのシーズンが終わりましたので、今後は定期的に夜、店を開けてもらえるように交渉しています。これから駅を活用していくに当たり、地元の人が楽しく過ごせる場所を作っていくという目的を持って企画を考えて行きたいと思います。

この「まちづくり」に対する取り組みが、この地域に住む「まつり」に参加する人のモチベーションを上げ、将来的に町の活性化につなげていけるように一歩づつ進めていければと思います。

おもてなしによる地域の魅力づくり

天理市トレイルセンター
代表　勝井景介

柳本での仕事がスタートして二年半が経ちました。大きな目標を掲げてはおりますが、振り返れば今まで、目の前の事をこなすのがやっとの毎日というのが正直な気持ちです。とは言え、おいしい空気の中で四季を通して記憶に残る美しいシーンと出会うことができました。

毎日トレイルセンターにはいろいろな方が訪れます。散歩のかた、ハイカーや登山客、レストランのお客様、ドライブの休憩に、お参りの方など様々。近隣の方はもちろん、この地を目指してお越しになる他府県、海外からのゲストも決して珍しくありません。私自身大阪を拠点としていた時と比べ、自分の世界が一回りも二回りも大きくなったような気持ちで仕事ができるようになりました。また同じ理念のもと一緒に働く仲間との出合いにも恵まれ、大阪市内から移住してきた当社のスタッフもたくさんの地元の方々の暖かいおもてなしの御蔭で、素晴らしいこの地に馴染むことができました。

ここ最近の世の中はめまぐるしい変わり方をしました。情報通信や移動手段の発展により世界中の情報を手に入れ簡単に旅ができる時代になりました。

日本中、世界中から龍王山や数々の古墳、山の辺の道を目指しお越しになるゲストも増えることでしょう。決してたくさんの人が集まることを目的とせず、柳本に住まう人たちの魅力溢れる暮らしがいつまでも同じリズムを刻み続く事を大切に、又その暮らしぶりがお越しになる方の魅力となりますよう今後も働いてまいりたいと考えております。

弁当を食し寛ぐハイカー

春・秋のシーズン　屋台出店でおもてなし

トレイルセンターから昼食を取るハイカー

編集後記

柳本校区区長会
顧問　福嶋重博

◎本年二月柳本公民館に於いて歴史地理学者千田稔氏に古代ヤマトについて高説を拝聴しました。本号寄稿で柳本は大規模古墳時代前期古墳が密集した重きをなした地域であったと記されています。

◎観光や住民の交流拠点として生まれ変わった柳本駅舎のにぎわいづくりに努める住民の熱意が伝わります。様々な形で住民の皆さんの参加を期待します。

◎トレイルセンターの運営が民間委託されて二年半市指定管理者公募時提案した内容が着実に進められていることが窺われます。

◎国のはじまりの地、古代の風景が残るこの地域の自然環境・歴史遺産を守り柳本地域の存在感を高め、トレイルセンター・柳本駅舎を拠点に多くの人々の流れを活かした街づくりに努め、次の世代に残していかなければならないと考えます。